

芭蕉句碑建立を記念して



【除幕式の様子(子ども達も市長さん達と一緒に除幕式に参加しました。)]

楠部町公民館に芭蕉の句碑を建立

平成三十年十二月二日(日)に、芭蕉句碑建立事業の締めくくりである除幕式を、句碑建立場所である楠部町公民館で執り行いました。当日はすばらしい天候にも恵まれ、伊勢市からは鈴木市長を始め環境生活部市民交流課の皆さん、また、四郷地区各自治会の皆さんや地元楠部町の皆さん、さらに四郷スポーツ少年団の子ども達も参加してくれて、大変賑やかで句碑に親しみを感じられるような式典となりました。

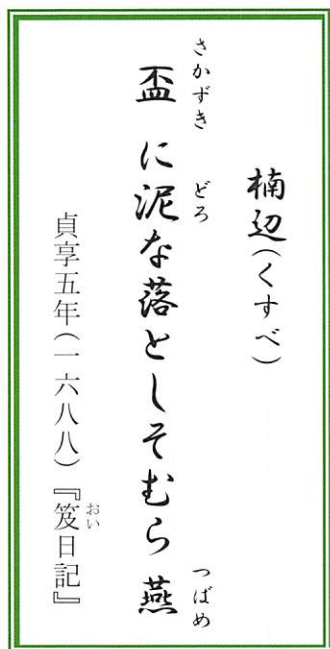
また、除幕式終了後には、句碑建立を記念して、伊勢郷土会副会長である石井昭郎さんに『四郷地区の芭蕉句碑について』と題してご講演をいただきました。

なお、この句碑は、四郷地区まちづくり協議会が、市の「ふるさと未来づくり事業」の補助金を中心に、有志の方々からの寄付も頂き、建立したものです。ご協力頂いた各団体等の皆さん、ご寄付を頂いた皆さんに、この紙面をお借りし、お礼申し上げます。



【除幕式にお集まりの皆さん】

今回建立した句碑について



① 芭蕉と伊勢の関わり

芭蕉は生涯に六度、伊勢を訪れたといわれています。お伊勢参り、尊敬する西行法師や俳諧の祖である荒木田守武神主ゆかりの地である伊勢は、芭蕉にとって憧れの土地でした。

ところで、芭蕉が伊勢来訪時に詠んだ句は全部で二十句余りあり、そのうち、句碑になっているのは、市内に八基あり、多くは寺院の庭等に建立されています。

この句は、芭蕉四十五歳、貞享五年(一六八八)春二月、「笈の小文(おいのこぶみ)」の旅(五回目の参宮)のおり、楠辺の茶屋で休憩した時に詠んだものと言われています。



【今回建立した芭蕉の碑】



【句碑の説明をされる石井昭郎さん】

② この句の口語訳及び茶屋について

この句の前書きに「楠辺」とあり、現在の伊勢市楠部町である。

「茶店の縁側辺りで、酒を酌み交わしていたのであろう。おりから巢を作るため、群燕が頭の上を飛び交い気になるところ、燕たちよ、どうか誤って盃に泥を落としてくれるなよ。」の意。季語は燕で春である。

ところで、この句に詠まれた茶店の所在であるが、安永二年(一七七三)の資料に、楠部川(五十鈴川)の側に、梶(くろくろ)茶屋というのがあり、その河流に臨み納涼の頃は、茶屋に遊ぶものが多かったという。また、明治二十八年(一八九五)の資料では、「鶉(ふくろう)茶屋は、大土(おおつち)神社の西、境内続きにあり、」とある。

一方、天保四年(一八三三)の資料には、神社参詣の旅人が「あこや」の茶店で休憩し、楠部村の旧跡について、茶店の主人に尋ねたことが記されている。「あこや」は現在の楠部町公民館前付近と考えられる。もう一軒の茶店は「あこや」の筋向いに「三島屋」という茶店があったことが知られている。

(参考文献『松尾芭蕉と伊勢』(中川崋梵著))

句碑建立記念講演

「四郷地区の芭蕉句碑について」

伊勢郷土会副会長

石井昭郎さん

石井さんの講演は、「一、俳諧と俳句」

「二、俳人松尾芭蕉」「三、芭蕉の句と碑」から成り、特に、「三、芭蕉の句と碑」では、芭蕉の六回以上の伊勢神宮参詣が西行法師の六年間の伊勢滞在なくしては果たし得なかった事など、芭蕉が西行法師の影響を強く受けたこと等を興味深くお話されました。

そして、芭蕉が詠んだ四郷地区に関わる句についてのお話をされた(後述)上で、四郷地区には先人が伝えてきた貴重な文化財が数多く残されており、地域の皆さんにもぜひこれらの文化財を知っていただきたい上で、文化財の保存にも関心を持っていただきたいと結ばれました。

以下、石井さんのお話にあった芭蕉の句について、まとめてみました。

○芋洗ふ女西行ならば哥よまむいもあらう うた

貞享元年(一六八四)『甲子吟行(かつしぎんこう)』

前文に「西行谷の麓に流れあり。」とあり、西行谷で詠んだ句である。季語は芋で秋。

「芭蕉が西行谷を訪れた折に、そこに芋を洗っている女がいた。もし、これが西行法師であったなら、あの江口の君に歌を詠みかけるような人だから、きっと女達に歌を詠みかけたであろうに」の意。

※西行谷は、朝熊山への登山道(宇治道)の途中から沢沿いに上がった伊勢志摩スカイラインの料金所近くにある。人里離れた所で、小さな滝がある。この辺りで西行は庵(いおり)を結んだと言われている。



【陸上競技場隣の西行谷登り口】

○秋の風伊勢の墓原猶すごしはかはらをお

元禄二年(一六八九)『花摘(はなつみ)』

前書きに、「いせの国、中村という所にて」とあり、伊勢市中村町。芭蕉は内宮へ参り帰路、別宮の月読宮へも参拝したと思われる。かつての中村墓地は、その近く西南の参宮街道沿いにあり、枕返しとも呼ばれた。「神様にお参りしてから、道沿いの墓原をながめると、身にもものさびしい秋の風が感じられ、ぞっとするほどであるよ。」の意。季語は秋の風。

碑は、最初、現在の桜木町の寺の境内に建てられたが、後に伊勢市一之木一丁目、常明寺境内へ移建された。



【常明寺境内にある句碑】

○此山このやまのつげかなしきところはり告よ野老のら塚

貞享五年(一六八八)『笈の小文』

前書きは「菩提山」伊勢市中村町にあった菩提山神宮寺で詠んだ句。季語は「野老」。「この山で野老(山芋)を掘る里人よ、昔の壮大な建物は、今は見る影もないけれど、お寺の悲しい移り変わりを語ってくれ。」の意。碑は、廃寺となった明治維新の頃、愛知県下に移されたというのが所在不明である。

○神垣かみがきやおもひもかけず涅槃ねはんぞう像

貞享五年(一六八八)『曠野(あれの)』

前書きに「二月十五日外宮の館にありて」とあり、その滞在中に涅槃像に際した時の句。季語は「涅槃像」。「二月十五日に外宮に参拝したところ、近くで意外にも涅槃像を拜することができた。このような神域に近いところで、お釈迦様の法会(ほうえ)に会いとうと思ひもよらぬことであるよ。」の意。

碑は朝熊山金剛證寺本堂から奥の院入口に通じる坂道の傍らに建っている。



【朝熊山金剛證寺にある句碑】

(以上、記念講演会のまとめ)

四郷地区は文化遺産の宝庫

今回は芭蕉の句碑建立ということで、主に四郷地区に関わる芭蕉の句を中心に採り上げましたが、他にも四郷地区にはたくさん文化財がありますので、地域の皆さんに知って頂き、保存にご協力いただければ幸いです。

ここでは、その一部を紹介します。

【有形文化財】

- 大五輪五輪塔(県指定)(楠部町)
- 木造薬師如来坐像(県指定)(楠部町)

- 木造薬師如来立像(市指定・中村町)
- 菩提山神宮寺曼荼羅石(市指定・中村町)



【中村町墓地にある菩提山の曼荼羅石】

- 左衛門太郎六字名号碑(市指定・中村町)
- 大般若経(奈良室町)(市指定・中村町)
- 丸山古墳出土品(市指定・中村町)
- 六地藏石幢(市指定・鹿海町)
- 橋本平八作片履達磨像(市指定・朝熊町)
- 鰐口(市指定・朝熊町)

【無形文化財】

- 河崎音頭(市指定・鹿海町)

編集後記

句碑建立に当たっては、場所提供をしていただいた楠部町自治会を始め、多くの方々にご協力いただきました。句碑をまだご覧になられていない皆様、ぜひ一度訪れてみてください。

四郷地区まちづくり協議会

生き生き学習委員会一同